

悪性リンパ腫における治療と変化

悪性リンパ腫を患い、抗がん剤治療中のHさんは2019年の10月「病気とうまく付き合っていくこと」を目的としてご来店されました。Hさんは子育て中のまだお若いママさんで、保育のお仕事も持っていましたが、来店当時は休職されていました。ご主人と息子さんの3人暮らしです。

ご病気になられてからアンテナを高く張り、ご自身でもいろいろ情報を集められていて、すでに自分自身と向き合われている前向きな方でした。

初回Hさんのエネルギー状態を確認すると、オーラ体に左右のズレや歪みが観られ止まったチャクラが数多く、ハートチャクラに関しては逆回転されていたのでハートにストレスを抱えてしまう方だということはすぐにわかりました。第一チャクラも止まっているため命に関わる状態だということは理解できました。ハンズオンや音叉で調整しオーラ体を確認すると、オーラ体が一般の方よりも大きく回復、普段から利他的な活動をされている方だということも感じました。お家や病院でも外因の影響を受けにくくケアできるようにYES（ヤロウ環境フォーミュラ）をお出ししました。

「1ヶ月の間すごく元気でした」Hさんからその言葉を聞いた通り、チャクラやオーラ体もほとんど調整後のままと維持しており、初回セッションの数日後に抗がん剤治療を受けていた肉体とは思えないくらい、お身体も楽だっただろうと想像がつかしました。その方の暮らし方、生き方、意識の仕方がこのようにエネルギーフィールドに影響をもたらすことが理解いただけると思います。「抗がん剤治療が怖くなってきた」と仰いました。

3回目の抗がん剤治療入院の後にいらした時は、お子さんへの心配を話してくださり、コミュニケーションの問題を吐き出されました。Hさんは頑張り屋さんではありますが、いつもご自身を後回しにするタイプで、子育てを含めた今の生活への心配が、徐々にHさんの主な原因であることがわかってきました。

11月下旬になると、医師から『寛解』を告げられました。

抗がん剤治療がうまく作用し、全治とは言えませんが病状が治って今は穏やかな状態が続いています。セッションの後は、内面に抱えている問題をただ聞くことにしていました。お身体の回復に焦点をおきセッションを続けてきました。『寛解』を聞いてから大変喜んでおられましたが「仕事復帰」についての迷いを吐き出されました。

Hさんのご病気の間ご家族にも負担がかかっていたのは確かですが、現在の静かな時間を過ごされ家族間の絆も強くなり、この世界を大切にしたいと感じ始めていました。年末に一度エネルギーフィールドを整え、再びハートチャクラに違和感を感じたことをシェアすると、子育てにおいて心配事があるとお話してくださいました。

このように数回のエネルギーフィールドの対応から、内面に抱えている問題が浮き彫りになってきたことから2020年に入り1月より、フラワーエッセンスを取入れることになりました。

初めから子育てのことはお話に出ていましたが、病気こととは別に、お子さんが高学年になるにつれ勉強の心配がありました。またサッカーとゲームの世界が好きで、親御さんはスポーツに集中して欲しい様子。しかしお母さんの思い通りにはいきません。他には病気が寛解になったとはいえ、抗がん剤治療のあとで体力は落ちています。そのことも考慮し処方を組み立てました。

アスペン

夕方から夜にかけて心が乱れやすく、不安やイライラが出てくることに対応

セントーリー

ご主人はリーダー気質でしっかり者、自分をハッキリ持っている。そんなご主人にご自身の意見を言う時に冷静に伝えられなくなってしまう。感情を受け取ってしまうことを緩和する

チコリー

周りの子と比べてお子さんを支配してしまう。Hさんの価値観を押し付けなくなる

オリーブ

数回に渡る抗がん剤治療のお疲れに、体力を戻すために

カレンデュラ

お子さんと関わるお仕事でHさんに、ご自身の病気の間ご自分のお子さんに傷つける言葉を使ってしまったこと、ご主人へのコミュニケーションにもあらゆる面で穏やかに伝えられるように

Hさんは呼吸法を生活の中に取り入れました。身体が元気になってきて家族の意識も戻る中で、「仕事への復帰」「息子さんのゲーム依存の心配」「一人で寝たい」という心の願望がハッキリしてきました。自分発信が課題だと心に刻まれた様子。生活の中にもともと軽い運動を取り入れていたHさんですが、言葉に出さねばならないことも表面化したとき”創作ダンスをやっていたこと”を思い出され、身体が喜んでいるような時間を持ち始めました。

息子さんのサッカーが自分で決めたチームでできるようになり明るく距離感を持って相手を気遣えるようになりました。2月には時間短縮でお仕事も復帰なさいました。

お仕事を復帰し3月に入ると臆想とお祈りが生活に加わりました。お子さんとの心の距離は保つようにはなりましたが、ご自身については何もできていないことに後悔されるようになりしました。以前から息子さんと他のお子さんを比較し嫉妬してしまうHさん。3月の学年の切り替えに準じてお友達の中に受験組が出てきます。コロナによる自粛が徐々に始まってきた事と、春休みに入ってゲームにはまっている息子さんに学力のご心配も重なります。息子さんと一緒に取れるようなフラワーエッセンスの組み合わせにすることを提案しました。

パイン

息子さんに対しての今までのことに全て後悔の念を感じる言葉が増えてきている

ホリー

他の人に対しての嫉妬心の緩和が必要

セントーリー（息子さんとともに）

Hさん自身は相手を傷つけないように言葉に出せるようになりましたが、息子さんも似ていて思いが伝わらないためにゲームを通じて発散しているように見える

インパチェンス

なかなか正すことができない息子さんの行動に対してのイライラ

クレマチス

Hさんの月星座（蟹座）に対応する感情パターンを癒す

スクレランサス

感情の症状が変わりやすい

チェスナットバット（息子さんとともに）

息子さんの行動パターンを繰り返しを緩和。学力促進のため
Hさんの心配表現のパターンの繰り返しに

ウォーターバイオレット（息子さんとともに）

一人で研究熱心に何かをすることが苦でなくお母さんといふことを好みます。頑固な自分も持っているので、コロナ禍であっても閉じこまらずに子供達と外で遊べるように。またお友達との塾も変わってしまったので、コミュニケーションがゲーム内に留まってしまいがち。いろんな人たちと接するように息子さんの月星座（水瓶座）に対応して感情パターンを癒す。同時に自分の価値観で考えがちなHさんに。

4月に入り、一度息子さんを遠隔でエネルギーの調整をするとグランディングしていなくて、何かハートに抱えている問題が観えました。ゲームのやりすぎか目の疲れも確かに気になります。

その後、胸が苦しかったというので息子さんとシェアすることにし、お友達と遊べなくなった原因や自分の納得できていないことをなぜ、そうなってしまったのか質問してみました。頭で理解していることが心が納得していない。そのような状況にいたことを理解し合えました。しばらくすると胸の苦しみが無くなりました。

5月に入り、Hさんもエネルギーフィールドの調整にいらっしゃいました。コロナ禍にあつて子育ての難しさが強くなります。もともと家庭に安らぎの場所を求めている方なので、ご家族とご自分の価値観を共有したいお気持ちが強くなりがちです。落ち着いていたエネルギーフィールドもグランディングが弱まり偏りを観察しました。

Hさんは『感情の抑圧が現れるとご自身のパーソナリティーがブロックする傾向になり、誰かの言いなりになったりします。この傾向が生死に関わる悪性リンパ腫に発展した原因の一つである。』このようにガイドからの声を聞きました。そこでフラワーエッセンスを処方しました。

インパチェンス・クレマチス・スクレランサスの継続とミムラスを加えました。

ミムラス

ゲームに興奮するお子さんの暴言に穏やかでいられなくなるための対応

6月、寛解後のPET検査良好。

Hさんの病状は体質的に再発しやすいタイプで医師に心配されていたところ安定した結果を診て、1年に1、2度行うPET検査はせずにCT検査に切り替えることになりました。

息子さんの秋頃からのパターンに最近ようやく気づく。特に息子さんへの口出しが多くなってしまい、そのあと後悔して眠るパターンになってきた。このような息子さんへの行動から夕方から夜にかけての疲労が心身共にあるのでしょうか。怒りに敏感になっていて怒られることが嫌だと仰います。なんでも諦めれば良い。と思ってきた心を理解してもらえない。「失望・絶望・悲しい・苦しい」幼い頃から父から自分は好かれていないのではないか、そんな思いも抱えていらっしゃいました。

身体の状態は上々ですが、内面の溜まっている感情がどんどん吐き出されてきました。インナーチャイルドの問題にもようやくたどり着きました。

クレマチス・スクレランサスの継続とオリーブの再処方とともに

レッドチェスナット

親しい人に心を常に感情移入してしまう。思い込みで心配が拡大していくことを緩和する

ゴース

「なんでも諦めれば良い」この気持ちはどこからやってくるのか、自分の意見を伝える難しさは「失望と絶望」感に覆われているため、はじめに解放する

チェスナットバット

息子さんへの口出し～後悔。というパターンを緩和する必要

他に、息子さんの自立時期にもあり習慣になるまで、自分のことや家族の動きを皆が一度に把握できる工夫をアドバイス。

7月のご報告。CT検査で経過を診ていく計画がさらに軽くなって、血液検査だけで経過を診ることになりました。また医師からは次の妊娠のOKもできました。エネルギーフィールドの調整とともに、YESを使い続けながらHさんの個人的な課題とも向き合ったフラワーエッセンスセッションの結果、ここまで回復に至りました。息子さんは悪性リンパ腫と戦ってきたお母さんを1年間側で寄り添いました。息子さんにはお腹の状態が悪くなるため、カモマイルド・カームオイルでHさんにトリートメントして頂き、何かあった時レスキューを使用して頂くと、彼自身もようやく自分の緊張も溶けたと実感する時がありました。それ以降はフラワーエッセンスを受け入れています。

振り返るとHさんの病気は家族も大きく変えました。ご主人もHさんを労わるように変化したそうです。前回のフラワーエッセンス処方後は、息子さんとの関係性は非常によくHさんもあまり気にならなくなったということです。

3～5歳児をあずかる保育園で働くHさんにとって、病気前は仕事場での子供の空気間に疲れてしまいエネルギーに負けてしまったそうです。『今は子供の方から寄ってくるんです！遊びの中で困っている子供を感じ取り、手を差し伸べられる感覚を久しぶりに味わえるようになりました』と、嬉しそうでした。

Hさんにとって新しい問題もありますが、ここまでの悪性リンパ種の治療とその後の経過が、医師の判断でもわかる通り太鼓判を押されるころまできたので、Hさんはご自身の病気、また人生を諦めることは無いことを、レポートを通じて誰かの役に立つならと承諾くださり、今回の発表に至りました。